

【酒造好適米の全体需給の推計】

農林水産省が本年7月に行った「酒造好適米等の需要量調査」の結果をまとめました。より詳細な調査結果の内容は、下記URLよりご参照ください。

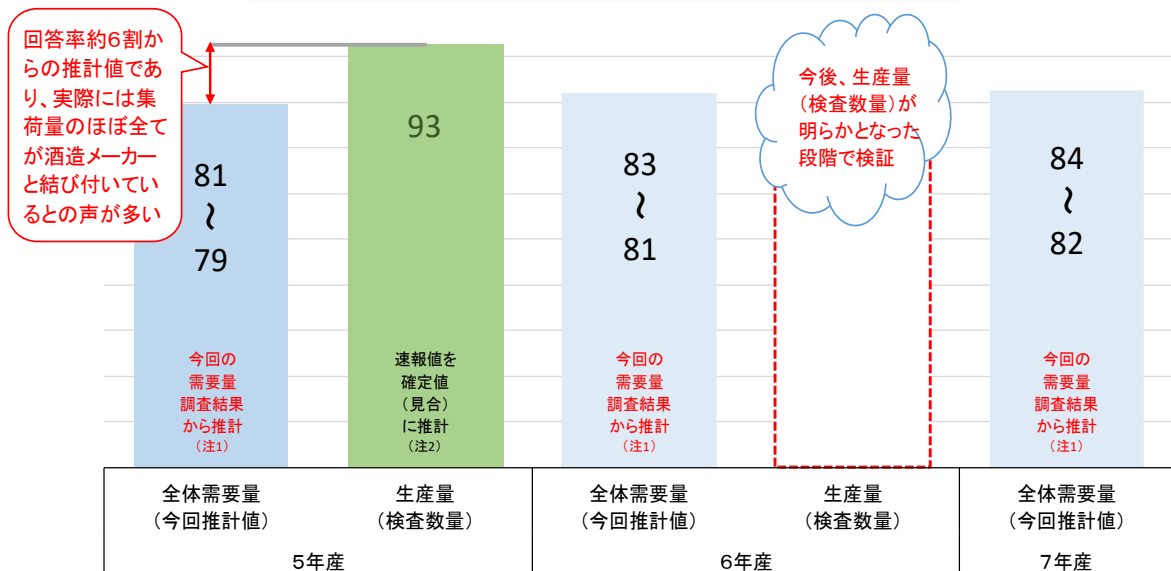
また、令和6年9月30日に「日本酒原料米の安定取引に向けた情報交換会」を開催したところであり、その概要については、同URLに追って掲載します。

【 https://www.maff.go.jp/j/seisaku_tokatu/kikaku/sake.html 】

- ・ 今回の需要量調査によると、令和5年産の全体需要量（推計値）は79～81千ト、令和6年産の全体需要量（推計値）は81～83千ト程度、令和7年産の全体需要量（推計値）は82～84千ト程度と見込まれます。
- ・ 令和5年産については、生産量（推計値）が全体需要量（推計値）を12～14千ト程度上回っているものの、生産及び実需の関係者からは、実際には集荷量のほぼ全てが酒造メーカーと結び付いており、過剰感はないとの声が多く、その差は全体需要量を聞き取り結果（回答率約6割）から推計していることによるものと考えられます。
- ・ 令和7年産については、各産地において、今後、全体需要量の変動する場合があることに留意するとともに、令和6年産の生産動向及び酒造メーカーからの最新の需要動向等を踏まえ、引き続き需要に応じた生産に取り組むことが重要です。
- ・ また、複数年契約の取組の拡大や日本酒の輸出拡大といった新たな需要動向を踏まえた生産に取り組むことも重要です。
- ・ なお、令和6年産の生産量については、酒造好適米の検査数量が概ね明らかとなる来年2月に検証し、3月号のマンスリーレポートでお知らせします。

（単位：千ト）

酒造好適米（醸造用玄米）の全体需給の状況



令和6年度酒造好適米等の需要量調査結果の概要

- ・ 昨年に引き続き、酒造好適米の需要量を把握するため、日本酒の酒造メーカーを対象として本年7月に需要量調査を実施しました。

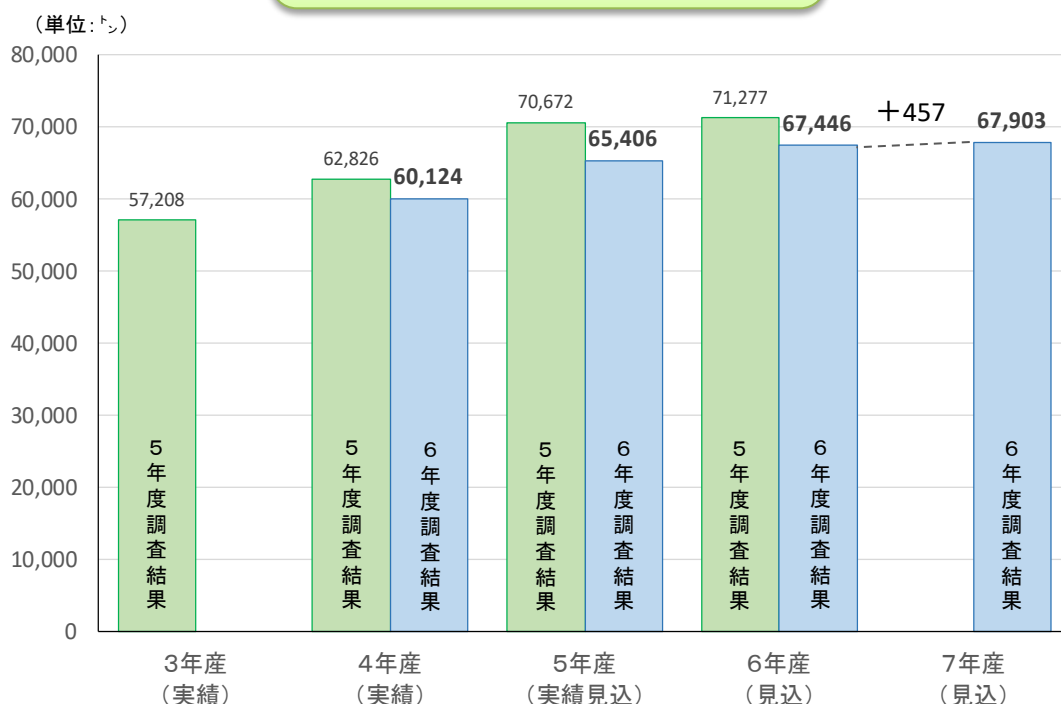
調査の概要

	令和5年度	令和6年度
調査期間	令和5年7月	令和6年7月
調査対象メーカー数	1,248社	1,205社
回答酒造メーカー数	765社	711社
回答率(数量ベース)	85～86%	81～83%

酒造好適米の需要量調査結果

- ・ 今年度の酒造好適米等の需要量調査で回答のあった酒造メーカーの令和7年産酒造好適米の需要見込みは、合計で68千トと令和6年産に比べてやや増加するという結果になりました。
- ・ 令和6年産の需要量は、昨年度の需要量調査においては、令和5年産に比べて+1%でしたが、今年度の需要量調査においても、令和5年産に比べて+3%となっています。
- ・ 令和7年産の生産に当たっては、各産地において、令和6年産の生産動向及び酒造メーカーからの最新の需要動向等を踏まえ、生産者と実需者が連携し、令和7年産の作付計画に反映する必要があります。

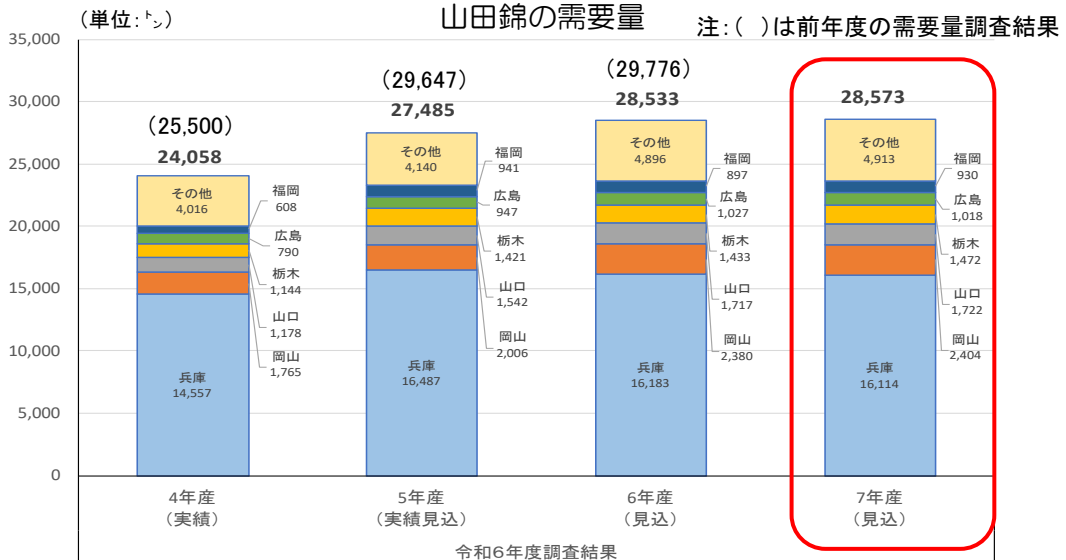
酒造好適米の需要量調査結果



主な酒造好適米の需要量(酒造メーカーからの回答分)

山田錦

- 令和7年産の山田錦の需要量は、令和6年産に比べて±0%と同程度となっています。
- 令和6年産の山田錦の需要量は、昨年度の需要量調査においては、令和5年産に比べて±0%でしたが、今年度の需要量調査においては、令和5年産に比べて+4%となっています。

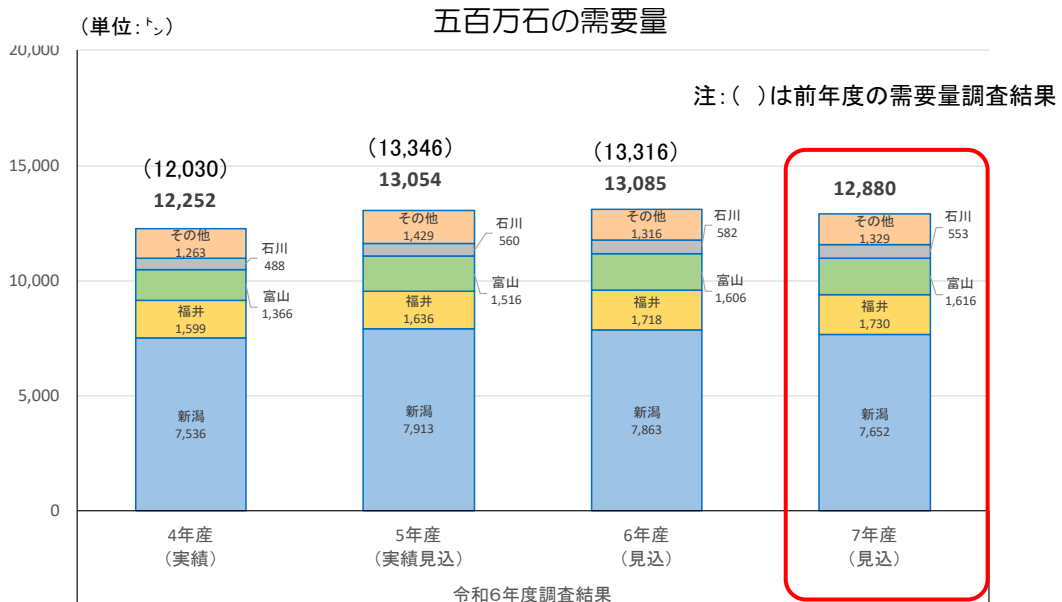


【参考】山田錦の生産量(検査数量)

4年産 28,168 5年産(推計値) 34,794

五百万石

- 令和7年産の五百万石の需要量は、令和6年産に比べて▲2%減少しています。
- 令和6年産の五百万石の需要量は、昨年度及び今年度のいずれの需要量調査においても、令和5年産に比べて±0%となっています。



【参考】五百万石の生産量(検査数量)

4年産 14,970 5年産(推計値) 16,940

日本酒の国内出荷状況

- 日本酒の国内出荷量については、近年、減少傾向で推移しているところですが、平成30年以降は減少幅が大きくなり、これまで堅調に推移していた酒造好適米を多く使用する特定名称酒についても減少に転じたところです。
- 令和6年1～7月においては、特定名称酒が対前年同期比▲1%、一般酒が対前年同期比▲4%と減少しており、日本酒全体としても、対前年同期比▲3%と減少しています。

日本酒の国内出荷量の推移

(千kl)

	平成 10年	15年	20年	25年	30年	令和 元年	2年	3年	4年	5年	6年 (1～7月)	対前年同期比
日本酒国内出荷量	1,133	871	659	580	495	467	419	404	404	390	196	97%
特定名称酒	291	221	174	164	171	165	142	138	145	146	74	99%
吟醸酒	34	30	20	21	23	22	20	19	20	19	9	102%
純米吟醸酒	25	26	24	29	45	45	40	42	46	48	25	100%
純米酒	62	54	57	58	64	62	55	53	55	55	29	101%
本醸造酒	169	111	73	56	38	35	27	24	25	24	11	94%
一般酒	842	650	485	416	324	302	276	266	259	245	122	96%

資料：日本酒造組合中央会調べ。年は暦年。令和6年は概算値。石川県のデータが令和5年12月以降一部未集計となっている。

注1：日本酒は、一般酒のほか、原料米及び製造方法などの諸条件（原料、精米歩留）により、吟醸酒、純米酒、本醸造酒等に分類され、これらを総称して「特定名称酒」という。一般酒は日本酒国内出荷量から特定名称酒の数量を差し引いて算出。

2：国内出荷量には輸出量は含まれていない。

日本酒の輸出状況

- 日本酒の国内出荷量が減少傾向にある中、輸出量については、海外での日本食ブーム等を背景に増加傾向で推移しています。
- 令和5年は、アメリカ、中国等への輸出の減少により、輸出量は対前年比▲19%と減少しましたが、令和6年1～7月においては、対前年同期比+2%と増加しています。

日本酒の輸出量の推移

(千kl)

	平成 10年	15年	20年	25年	30年	令和 元年	2年	3年	4年	5年	6年 (1～7月)	対前年同期比
日本酒輸出量	8	8	12	16	26	25	22	32	36	29	17.5	102%
アメリカ合衆国	1	2	4	4	6	6	5	9	9	7	4.8	127%
中華人民共和国	0	0	0	1	4	5	5	7	7	6	2.6	68%
香港	1	1	1	2	2	2	3	3	3	2	1.1	79%
台湾	4	2	2	2	2	2	2	3	3	3	1.6	101%
大韓民国	0	0	2	4	5	3	2	2	4	4	3.0	117%
その他	2	2	3	4	6	6	5	8	10	7	4.4	109%

資料：「貿易統計」（財務省）。年は暦年。

以上のほか、詳細な情報は、以下URLにより「日本酒をめぐる状況」及び「酒造好適米の需要量調査結果」を参照ください。

URL：https://www.maff.go.jp/j/seisaku_tokatu/kikaku/sake.html